



大図研京都ワンディセミナーのご案内

『立命館大学深訪～今話題の「びあら」と日本文化デジタル・ヒューマニティーズ
拠点研究の一端に触れる』

概 要：

現在、大学図書館において「ラーニング・コモンズ」と呼ばれるスペースを設けて学生を中心とした利用者の学習を支援する動きが注目されています。ラーニング・コモンズは、学生が自主的に学習するための資料や設備、サービス等を提供する場として設置されています。

今回は、2011年4月にオープンした立命館大学のラーニング・コモンズ「びあら」

(<http://www.ritsumeit.ac.jp/acd/mr/lib/plr/index.html>) を見学してお話を伺いたいと思います。

さらに、今回のセミナーでは、有形無形の文化資産のデジタルアーカイブ研究を推し進める立命館大学のアート・リサーチセンター (<http://www.arc.ritsumeit.ac.jp/>) の金子貴昭先生にご講演いただきます。金子先生からは、現在研究されている板木デジタルアーカイブ

(<http://www.dh-jac.net/db9/hangi/>) についてお話を伺います。金子先生は「板木書誌学」という観点からの研究を行っておられます。印刷後の書物を眺めるだけではなく、その元となった板木の形やサイズと紙質の混在パターン等を研究することで、摺りあがった書物に現れた様々な現象について理解したり、近世の出版課程を明らかにしたりすることができるということです。

講 師：金子 貴昭先生（立命館大学衣笠総合研究機構研究員）

日 時：2012年12月15日（土）13：30～17：30

（13：15～末川記念館第3会議室にて受付開始）

※終了後、情報交換会兼京都支部忘年会を開催いたします。

場 所：立命館大学衣笠キャンパス 末川記念館／びあら／アート・リサーチセンター

受講料：大図研会員は無料（非会員は500円 参加費は当日、会場にていただきます。）

申込方法：大図研京都ワンディセミナー申込フォーム

(<http://www.daitoken.com/kyoto/event/20121215.html>)からお申し込みください。

申込期限：12月8日（土）

※申込み多数の場合、早めに締め切らせていただく場合があります。

[目 次]

大図研京都ワンディセミナーのご案内	…	1
全国大会終了報告	…	2
大学図書館問題研究会第35回京都支部総会議案	…	3
支部委員挨拶	…	11

○ ご意見・ご要望、投稿は下記、電子メールまたは URL へお寄せください。

電子メール：kyoto@daitoken.com（大学図書館問題研究会京都支部）

URL：<http://www.daitoken.com/kyoto/index.htm>

全国大会終了報告

京都支部支部長 山下ユミ

平成 24 年 8 月 4 日（土）から 6 日（月）まで開催された、大学図書館問題研究会の第 43 回全国大会が無事に終了しました。ご参加いただいた皆様、ご協力いただいた皆様、どうもありがとうございました。全国大会の報告は「大学の図書館」の 12 月号でも特集されますので、ここでは別の視点から感想を書きたいと思います。

全国大会は、会員の成果発表および情報交流の場です。全国大会が「会員の成果発表の場」であるにも関わらず、近年の傾向として、研究発表をする会員がなかなか現れない、決まらないということがよく言われる理由です。また、人員削減により仕事が忙しくなり、研究をする余裕が図書館員になくなってしまったということがよく言われる理由です。また、大図研全国大会が魅力的な発表の場ではなくなってきているということもあるのかもしれませんが、けれども、時代が移ったからといって、図書館員が日常業務を遂行するだけで必要な知識を全てまかなえるようになったとは思えません。私たちが研究者に情報を提供する大学図書館員である限り、日常業務の中から疑問を見つけ、小さなものであっても調査研究に取り組むということの重要性は変わらないはずで、そして、それに気付いて行動している図書館員も、きっといるはずで、そこで今年の全国大会では大図研の基本に立ち返り、会員の研究発表の時間を充実させたいと考えて、約 2 時間を確保しました。忙しい業務の合間に勉強したり、研究したり、調査をしている図書館員は探してみるとあちこちにいました。そういった人たちに発表の機会として全国大会を利用してもらい、またその発表を聞くことで参加者は刺激を受けられる場を提供することができたと思います。

また、今回は企業展示ブースを設け、プロダクトレビューを行い、抄録集を作成して広告掲載を依頼するなど、企業との協力を強く意識しました。全国大会は「会員の情報交流の場」ではありますが、年々会員数が減少している現在では、有効な情報交換のためにも非会員の参加者は歓迎されますし、大学図書館における情報提供において企業との協力は欠かすことができないもので、重要なパートナーともいえます。結果として、プログラムは充実し、参加者は多様になり、会場は展示ブースと 159 人の参加者で大変にぎやかになりました。さらに、企業からの展示費用等によって予算が増えたため、参加費を前年より 2,000 円抑えて参加者に還元することができました。

その他にも、記念講演での小松先生の妖怪のお話、例年より多く 12 に分かれた分科会、「大学図書館のアドボカシーとは何か？」をテーマとしたシンポジウム、どの企画も単独でセミナーとして成立させたいような濃い内容だったようです。

初めは実現することも難しく思われた様々な企画を一緒に実現してくれて、わくわくする時間を一緒に過ごすことができた支部委員の仲間と、常任委員会、全国委員会の皆さんに心から感謝します。

ところで、嬉しいことに、この全国大会への参加をきっかけとして大図研京都支部に入会してくれた方々がたくさんいらっしゃいました。新しい会員の皆さんとも、全国大会でお会いできなかった京都支部の方々とも、次の企画ではぜひお会いしてお話したいです。ぜひ、ワンディセミナーや忘年会にお運びください。お待ちしております！

やました ゆみ（京都府立医科大学附属図書館）

大学図書館問題研究会第 35 回京都支部総会議案

【第1号議案】

2011年度 (2011. 7～2012. 6) 活動総括及び

2012年度 (2012. 7～2013. 6) 活動方針

1. 2011年度活動総括

(1) 研究交流活動

2011年度は、2回以上のセミナー開催を年度目標とし、関西3支部新春合同例会も含め、この目標を実現いたしました。2012年1月14日に開催した大図研関西3支部新春合同例会では、「もしドラッカーが大学図書館をつくったら」というテーマによるワークショップ形式のセミナーを開催し、26名の参加者に来場いただき、参加者アンケートでも好評をいただきました。

また、6月2日に開催したディスカバリーサービスを扱ったワンディセミナーでは、63名というかつてない多数の参加者に足を運んでいただくことができ、大きな成功を収めることができました。加えてこのワンディセミナーは、全国大会へのプレ企画という面もあり、このワンディセミナーの成功が、全国大会への大きな弾みにもなりました。このセミナーがきっかけで、41名来られた非会員のうち1名の方に新たに入会いただけたのも大きな成果でした。

広報については、昨年に引き続きメーリングリスト等への周知、京阪神の大学図書館等へのチラシやメールでの案内、Twitter アカウント「daitokenkyoto」による発信などを展開し、より一層の参加者数の増加を図っています。また、新たな会場での実施、適切な参加費設定の検討などよりよい運営の検討を進めています。

1) 大学図書館問題研究会 関西3支部新春合同例会

「もしドラッカーが大学図書館をつくったら ～ワークショップ～」

日時：2012年1月14日 (土) 13:30～16:30

講師：市川充氏 (AMULET (株) 代表取締役)

場所：京都市国際交流会館 第2会議室

参加費：無料

参加者数：26名

2) 大図研京都ワンディセミナー

「ディスカバリーサービス：導入とその後について経験者が語る」

日時：2012年6月2日 (土) 13:30～16:45

講師：飯野 勝則 氏 (佛教大学図書館)

安東 正玄 氏 (立命館大学図書館)

場所：キャンパスプラザ京都 第1 会議室

参加費：大図研会員は無料／非会員は500円

参加者数：63名

(2) 支部報

2011年度は、会員の皆様から長年ご要望をいただいていた、支部報の電子化が過去の遡及入力も含めて、151号以降がついに完了しました。最新の3号分（半年分）はパスワードを設定し、京都支部の会員限定で公開するという運用により京都支部Webサイトでの公開を開始いたしました。これにより、支部報へのアクセシビリティを格段に向上させることができました。

2011年度刊行分につきましては、発行期日の若干の遅れは生じましたが、計画的発行に努め、所定の号数を発行しています。また、2010年度から始まった連載企画「わたしの図書館紹介します」がある程度定期的に掲載されるようになり、より一層、会員間での情報共有が進むためのきっかけを提供することができました。加えて、新入会員から書店営業担当者まで、幅広い執筆者に原稿依頼をすることで、より多彩な誌面づくりに努めました。

2011年度発行した支部報の目次は、次のとおりです。

1) 支部報No.283 (2011/08/15発行)

- * 大学図書館問題研究会第34回京都支部総会を開催しました
- * 2010年度活動総括及び2011年度活動方針
- * 2010年度決算案及び2011年度予算案、会計監査報告
- * 2011年度大学図書館問題研究会京都支部役員
- * 大学図書館問題研究会第34回京都支部総会 議事メモ・補足事項
- * 大図研京都ワンディセミナー「伝える技術を磨こう～比較文化の視点で発信力アップ～」参加報告（豊田哲也）

2) 支部報No.284 (2011/10/15発行)

- * 大図研京都支部「大図研について語る大忘年会！」開催のご案内
- * 支部委員 挨拶
- * 筑波大学主催「平成23年度大学図書館職員長期研修」参加報告（大綱浩一）
- * 第42回大学図書館問題研究会全国大会分科会（図書館経営）参加報告（安東正玄）

3) 支部報No.285 (2011/12/15発行)

- * 関西3支部新春合同例会開催のご案内
- * 信頼され、必要とされ、人が集まる場であり続けるために—学術情報基盤として、新たな存立意義の確立に挑戦する—（大綱浩一）
- * 京都支部のセミナー企画に参加しませんか？
- * 連続企画：わたしの図書館紹介します！ 紹介番号2 滋賀医科大学附属図書館紹介（寺升夕希）

4) 支部報No.286 (2012/02/15発行)

- * 関西3支部新春合同例会開催のご案内(終了しました)
- * 図書館総合展に参加して（上山卓也）
- * 大学図書館問題研究会 関西3支部新春合同例会「もしドラッカーが大学図書館を作ったら～ワークショップ～」に参加して 例会初参加の感想（今野創祐）
- * 本の紹介 第8回 科学者として生き残る方法（坂本拓）

5) 支部報No.287 (2012/04/15発行)

- * 大図研京都ワンディセミナーのご案内
- * 私の図書館 立命館大学 衣笠図書館 (安東正玄, 藤谷篤)
- * 別府だより～温泉に浸かってぼんやりと～ (藤谷篤)
- * 大学図書館問題研究会第43回全国大会のご案内

6) 支部報No.288 (2012/06/15発行)

- * 大図研京都ワンディセミナーのご案内
- * 小特集: 大図研京都ワンディセミナー「ディスカバリーサービス: 導入とその後について経験者が語る」参加報告
- * ディスカバリーサービス: セミナーそして懇親会 (小林明生)
- * 初めてのワンディセミナー (山上朋宏)
- * 探すことは楽しいこと (末田真樹子)

7) 支部報No.289 (2012/08/15発行)

- * 大学図書館問題研究会京都支部第35回京都支部総会のご案内
- * 大学図書館問題研究会京都支部第35回京都支部総会議案
- * 京都支部委員の募集について
- * 大学図書館問題研究会 第43回全国大会 (京都) 終了しました

(3) Webサイト、メーリングリスト、メールマガジン

Webサイトでは、イベントのお知らせや、支部委員会の報告等、支部活動の記録を定期的かつ迅速に掲載しています。また、2011年度は支部報記事の電子化に取り組み、151号以降の一般公開を開始しました。ただし、最新3号については、パスワードロックをかけて会員のみアクセスできるように設定しています。Webサイトは2012年8月23日現在、13,429アクセスを得ています (アクセスカウンター設置: 2006年8月22日)。

メールマガジンは、「大図研京都支部 NewsLetter」として、no.126 (2011年7月2日) からno. 155 (2012年8月18日) を発行しました。支部活動をお知らせするものとして、従来の支部委員会議事録、支部企画案内等に加え、2011年度からは支部報の発行を目次・概要とともに紹介する記事を配信しています。また、月1回のイベント案内を定期的に配信することに加え、京都近郊の大学図書館で開催される展示会等を紹介する記事を試行的に配信しました。なお、より読みやすい記事を目指して、配信時の件名に内容が分かる文言 (イベント案内、支部報発行、支部委員会議事録等) を追加しました。

さらに、Twitterの活用を図り、241アカウントのフォロワーを得ています。忘年会やワンディセミナー告知、支部報や議事録の発行の広報を行いました。

(4) 組織活動

会員数は、2012年8月17日現在63名で、2011年度当初よりも2名減少しました。退職、転勤、会費延滞による退会者が7名であった一方で、新規入会者は5名でした。

ワンディセミナーや京都支部を中心に運営した全国大会は、多くの非会員に対しても大図研や京都支部の活動をアピールする場でもあり、会費の割引なども行いました。また、セミナー案内チラシへの入会案内同封や個別の勧誘等を積極的に行うなどして、あらたな会員獲得に努めていますが、目標会員数70名には到達しませんでした。

(5) 財政

2010年度に引き続き、会費納入率の向上に努めています。また、所定の会費徴収スケジュールに則った計画的な督促業務を行うことによって、低い未納率も維持しています。なお、各年度の未納率は次のようになっています。2008年度2%、2009年度5%、2010年度8%、2011年度14%（2007年度以前は0%。休会扱い3名を含む）。しかしながら2010年度総会で宣言した努力目標未納率0%には至っていません。

なお、節約の結果として積み立てられた予備費を効果的に活用する方策として、有料の講師や連続セミナー等に向けての積立金を作成しています（2011年度は使用せず）。

(6) その他

第43回全国大会は、2012年8月4日～6日の日程でコミュニティ嵯峨野にて開催し、参加者数は161人でした。

また、例年どおり「大学の図書館」の1号の編集を担当し、4月号（特集：これからの大学図書館政策）を作成しました。

※2011年度の総会を9月に開催するにあたり、2012年7月以降の状況も掲載しています。

2. 2012年度活動方針

(1) 研究交流活動

- A) 研究交流活動は、会員の知的交流の場であると共に、非会員への広報でもあるという意味を再認識し、組織拡大への貢献も大きな柱といたします。
- B) そのためにも、地域における積極的な参加を促すため、京都および周辺地域の大学図書館等、関連する組織への広報も継続していきます。
- C) 企画内容については、時代にあったテーマと内容を設定するために、セミナー企画段階からの、会員の参加募集の試みを継続いたします。
- D) セミナー開催頻度としては、2012年度も年2回程度を目標といたします。

(2) 支部報

定期発行と正確で読みやすい誌面の作成とともに、広く寄稿を求めかつ連載記事を企画することにより、コンテンツの一層の充実を努めます。また、電子化によりアクセシビリティが高まったことをインセンティブに、自己啓発や会員間交流の場としてだけでなく、より多くの会員に「発表の場を提供する」支部報となるよう引き続き努力します。

(3) Webサイト、メーリングリスト、メールマガジン

京都支部の活動に関する情報をわかりやすくかつ迅速に提供するため、Webサイトを随時更新します。支部報記事の電子化・公開作業、コンテンツの拡充と会員間コミュニケーションの促進強化は今後も継続していきます。

また、メールマガジンをより読まれるような内容にする工夫を継続するとともに、Twitterアカウントの積極的活用を継続します。

(4) 組織活動

京都支部に求められるニーズ調査のための予算を計上し、どのような活動が求められているかを探ります。

目標会員数を70名として、ワンディセミナー等の活動を継続し、京都支部の持つ魅力を認識し、高め、入会者が大図研京都支部に在籍していることにより一層価値を見いだせるような活動を行います。

(5) 財務

所定の会費徴収スケジュールに従い、個々の会員へ個人別会費納入状況のお知らせや振込用紙の発送を行います。長期滞納者は引き続き、積極的な督促を行い、未納率0%を目指します。退職等による会員減少に伴い、また支部会員70名の努力目標に向けて特別事業費を作成しました。2012年度も積極的に新規支部会員増を目指していきます。

2010年度総会ご意見により費目名称を研究交流会積立金から特別研究交流会企画費へ変更しました。また、事務処理方法として2012年度よりゆうちょ銀行オンラインバンクを活用していく予定です。

【第2号議案】

2011年度(2011.7～2012.6)決算案及び

2012年度(2012.7～2013.6)予算案

2011年度決算案(2011.7～2012.6)

総収入	総支出	差引残高
838,086	528,547	309,539

■収入の部

項目	予算	決算	差引額	備考
前年度繰越金	299,705	299,705	0	
2012年度会費	0	77,000	-77,000	11名(@7,000円)
2011年度会費	448,000	385,000	63,000	55名(@7,000円)
未納会費	91,000	28,000	63,000	4名(@7,000円)
支部報購読会費	0	10,000	-10,000	1名(@2,000円×5年分)
セミナー参加費	15,000	285,000	-13,500	7月分(@500円×16名) 6月分(@500円×41名)
大図研出版物支部卸頒布	5,000	78,000	-2,800	会員(@800×6冊) 非会員(@1,000×3冊)
寄附金	0	2,000	-2,000	
口座利子	0	81	-81	
合計	858,705	838,086	20,619	

※会費内訳(本部会費4,500円+支部会費2,000円+支部還元金500円)

■支出の部

項目	予算	決算	差引額	備考
会報	60,000	48,510	11,490	印刷 16,740 円 送料 (31,770 円)
研究交流会費	160,000	141,258	18,742	7 月後払 (31,200 円) 1 月 (84,248 円) 6 月 (25,810 円)
支部委員活動費	30,000	10,000	20,000	
大図研出版物支部卸購入	6,000	9,000	-3,000	
事務費	20,000	6,265	13,735	うち会費振込手数料 (2,840 円)/支部卸購入振 込料(160 円)
HP 維持費	3,000	3,000	0	
研究交流会積立金	100,000	0	100,000	
本部会費	346,500	310,500	36,000	69 名 (@4,500 円)
予備費	133,205	0	133,205	
口座税金	0	14	-14	
合計	858,705	528,547	330,158	

2012 年度予算案 (2012.7~2013.6)

□収入の部

項目	予算	備考
前年度繰越金	309,539	
2011 年度会費	350,000	50 名
未納会費	77,000	2011 年度 : 11 名 * 7,000 円
	35,000	2010 年度 : 5 名 * 7,000 円
	21,000	2009 年度 : 3 名 * 7,000 円
	7,000	2008 年度 : 1 名 * 7,000 円
セミナー参加費	20,000	
大図研出版物支部卸頒布	5,000	
合計	824,539	

□支出の部

項目	支出	備考
会報	60,000	印刷費 (20,000 円) / 送料 (40,000 円)
研究交流会費	160,000	
支部委員活動費	30,000	
大図研出版物支部卸購入	6,000	5 冊 * 2 種類 (@600 円)
事務費	20,000	
HP 維持費	3,000	
特別研究交流会企画費	110,000	旧項目名称 : 研究交流会積立費
本部会費	319,500	71 名 (@4,500 円)
特別事業費	30,000	
予備費	86,039	
合計	824,539	

2011 年度大学図書館問題研究会京都支部会計監査報告

帳簿および現金は適正に保管・記載されていた。

2012 年 9 月 7 日

楠見 牧子 (印)

渡邊 伸彦 (印)

決算

- ※ 高い会費納入率で、多くの収入を得ています
- ※ セミナー開催が昨年度 6 月でなく 7 月開催となったため、後払い経費を決算に含んでいます
- ※ 事務費の内訳は主に事務用品と会費振込手数料です
- ※ 1 件の寄附を受けました

予算

- ※ 前年度層が来ご意見より費目名称を研究交流会積立金から特別研究交流会企画費へ変更しました
- ※ 監査委員よりのご指摘により特別研究交流会企画費を 10,000 円増額しました
- ※ 1 号議案により、新支部会員増のための特別事業費を設定しています

【第 3 号議案】

2011 年度大学図書館問題研究会京都支部役員

支部委員 (50 音順)

- 赤澤 久弥 (京都大学附属図書館)
- 安東 正玄 (立命館大学図書館)
- 池田 貴儀 (日本原子力研究開発機構研究技術情報部)
- 大瀬戸 貴己 (奈良県立医科大学附属図書館)
- 金森 悠一 (京都教育大学附属図書館)
- 坂本 拓 (京都大学附属図書館)
- 辰野 直子 (国際日本文化研究センター図書館)
- 寺升 夕希 (滋賀医科大学附属図書館)
- 長坂 和茂 (京都大学工学研究科・工学部桂化学系図書室)
- 野間口 真裕 (京都大学経済学部図書室)
- 原竹 留美 (滋賀医科大学附属図書館)
- 藤谷 篤 (立命館アジア太平洋大学 APU ライブラリー(委託職員))
- 山下 ユミ (京都府立医科大学附属図書館)

監査委員

- 楠見 牧子 (奈良教育大学学術情報教育研究センター図書館)
- 渡邊 伸彦 (京都大学附属図書館)

全国委員

長坂 和茂 (京都大学工学研究科・工学部桂化学系図書室)

特別支部委員

大綱 浩一 (京都大学附属図書館)

<大学図書館問題研究会第 35 回京都支部総会 議事メモ・補足事項> 出席者 13 名

会員の皆様に支部総会当日の様子を知って頂くために、簡単に当日の様子をお知らせします。

1. 山下支部長から第 1 号議案について説明があり、一部訂正のうえ了承されました。
2. 長坂支部委員から大図研第 43 回全国大会報告が行われました。
3. 野間口支部委員から第 2 号議案について説明があり、原案のとおり了承されました。
4. 支部委員、監査委員、全国委員、特別支部委員については、第 3 号議案のとおり選出されました。

○1 号議案については、訂正がありました。

1.2011 年度活動総括 (5)財政→(5)財務

○2 号議案について、ご意見があり、以下の補足説明がありました

事前意見：(関西 3 支部新春合同例会について)『"(お金を) 取らなかったことの意義"を明確にしておかないと、無駄に支出した (=お金を取るべきところを京都支部会員からの会費のみで賄ってしまった) と解釈されてしまうこともありうるかと思えます。』

回答：合同例会は参加費を徴収しない、他支部から援助を受けないことになっているのが、根本的な回答。

しかし、過去の合同例会では昔はセミナーというよりは懇親会など広報の場ということであったが、最近はセミナーを形式も多く、予算が必要で資金援助をいただいたこともある。今回は参加費無料ということで広報を開始し、他支部の援助依頼も難しくなったタイミングで経費が増えてしまい話しあえずに決まってしまった面もある。今後とも支部会員に丁寧な説明が必要。

○2 号議案について、次の質疑応答がありました。

発言：2012 年度予算案の会費収入の人数と本部会費の人数が異なるのはなぜか。

回答：2011 年度最終本部会費送金の後の入会が 1 名あったので、異なっている。

支部委員 挨拶

大図研の年度は7月で替わります。今年は8月に全国大会を開催したため、例年より遅れましたが、2012年度の開始に伴いまして、支部委員を務めさせていただきます13名よりご挨拶させていただきます。今年度も新しいメンバーを迎え、より一層京都支部を盛り上げていきます。これからも大図研京都支部をどうぞよろしくお願いいたします。

● 赤澤 久弥 (メールマガジン／支部報印刷・発送)

メールマガジンと支部報発送を担当いたします。さて、「大図研京都支部 NewsLetter」では、支部が開催するイベントのご案内、支部活動をお知らせする支部委員会議事録、そして図書館関係のイベント案内といったコンテンツをお届けしています。また、支部からの情報をお届けするだけではなく、会員の皆さまからの情報提供や投稿も歓迎しています。ぜひ、支部報と併せて、皆さまからの情報発信媒体として「NewLetter」をご活用ください。そして、これらの媒体をつながりにして、いっしょに支部活動を作っていけると幸いです。今年度もよろしくお願いいたします。

あかざわ ひさや (京都大学附属図書館)

● 安東 正玄 (研究企画)

今年も引き続き企画担当させていただきます。
企画の取り組みの中で私立大学の会員を増やして行くことを目標にしています。
私事ですが、今まで「友人に似ている」「中学校の時の音楽の先生に似ている」としか言われたことしかない私です。しかし先日授業参観日に行った日の夜。息子の友達が「お前の父さん『キングカズ』に似てるな」と言っていたと報告がありました。はじめに芸能人と言われ、ちょっと嬉しかった私です。
私も「キングカズ」のようにいつまでも現役を貫き通し、最後まで奮闘して行きたいものです。(笑い)

あんどう せいげん (立命館大学 図書館サービス課)

● 池田 貴儀 (支部報編集／メールマガジン)

日本原子力研究開発機構の池田です。今年度も引き続き京都支部委員を務めさせていただきます。役割としましては「支部報編集」と「メールマガジン」を担当いたします。会員の皆様にとって有益な情報の発信、また有意義な交流の場を提供できればと考えています。京都支部以外の大図研の活動としては、常任委員、会報「大学の図書館」の編集委員も引き続き務めます。支部委員として京都支部を陰で支えていければと考えています。よろしくお願いいたします。

いけだ きよし (日本原子力研究開発機構研究技術情報部)

● 大瀬戸 貴己 (メールマガジン／研究企画)

今年度より支部委員を務めさせていただきます。医学図書館に入って4年、大図研のことはちらほらと耳にしていました。どんなものなのか気になってはいましたが、特にイベントなど参加したこともなく、人から話を聞くだけでした。そこでこの際入ってみることにしました。何事も百聞は一見に如かず、やってみないとわかりません。

先日参加した支部委員会では、委員のみなさんの自由で活発な意見交換とウェルカムな空気に早くも楽しさを感じました。イベントなどはもっと楽しいのだろうと想像を

膨らませています。

支部委員として運営を支えつつ、一会員として楽しみながら大図研に携わっていただければと思っています。どうぞよろしくお願いいたします。

おおせと きみ (奈良県立医科大学附属図書館)

● 金森 悠一 (Web サイト・ML/メールマガジン)

私の職場は現在、増築・改築工事の真っ最中です。来年度に新しくなった職場で働く姿を思い浮かべながらワクワクする毎日...だけだとよかったです。事務室の真上でも工事していて毎日騒音との戦いです。ひどい日には、すぐ目の前で会話していても全く聞こえません。しかも、エアコンが取り外され、電気ストーブ等は電気容量が不安であまりおけそうにないので、冬の到来を戦々恐々としています。それでも、新しくなるのはうれしいことです。建物にあわせて、Web サイトも各所の OPAC や一橋大のようにスマホ対応など一新できたらなと夢想しています。

3 年目となる支部委員は、お馴染みの Web サイト管理に加え、今年は組織・財務も担当します。日々の管理をこなしつつ、新しいことを学んでいきたいと思っています。本年度もどうぞよろしくお願いいたします。

かなもり ゆういち (京都教育大学附属図書館)

● 坂本 拓 (副支部長/支部報編集)

早いもので、大図研に入って 6 年が経ちました。この間、素晴らしい先輩たちと色々な活動をご一緒させていただき、図書館員としても、社会人としても随分成長させていただいたように思います。

勤続数十年のベテラン管理職の方、まだ採用後間もないフレッシュな方、非正規の方、このような様々な立場の方がフラットに関わりあえ、職場ではできない経験ができる、というところが、大図研が他の団体と大きく一線を画しているところだと思います。

先日の全国大会をきっかけに何人もの方が新たに会員になってくださったことを考えるとやはり、大図研は多くの方に必要とされている組織なのだと強く感じました。

2012 年度、より多くの方といっしょにいろいろなことができるよう、また一年、頑張っていきたいと思っています。どうぞよろしくお願いいたします。

さかもと たく (京都大学附属図書館)

● 辰野 直子

支部委員となって今期で 10 年目になります。あらためて、大図研の活動をとおして得たこと・学んだことがとても多いと感じています。私が支部委員になった当時の支部委員もごく僅かになりました。先輩方から教えて頂いたことを伝えることができているかという不安もありますが、人が入れ替わり新しい風を吹き込みながら、活発な活動を継続できていると感じます。会員の皆様の協力を得て、成功裏に終えられた昨年度の全国大会もその一例と言えるかと思っています。

今年度、会員の方にとってより参加しやすい・関わりやすい活動を考えています。また、ゴーストの会をはじめとする OB の方々とも交流させて頂きたいと考えています。そして、そのような活動から、今後の大図研、京都支部を皆様とともに考えていただければと思います。一年間どうぞよろしくお願いいたします。

たつの なおこ (国際日本文化研究センター図書館)

● 寺升 夕希 (Web サイト・ML)

昨年に引き続き Web サイト運営を担当いたします、滋賀医科大学附属図書館の寺升です。

昨年度は、初めての務めということもあり、他の支部委員の皆様をはじめ会員の方に支えられて何とか務めることができたと思っております。また 8 月には、大学図書館問題研究会全国大会が京都で開催され、その運営スタッフとして関わることができました。忙しいながらも、非常に勉強になる機会だったと実感しています。

まだまだ至らない点多いかと思いますが、どうぞよろしくお願いいたします。
1 年間よろしくお願いいたします。

てらます ゆうき (滋賀医科大学附属図書館)

● 長坂 和茂 (支部報印刷・発送／第 43 回全国大会京都支部実行委員)

今年度も引き続き支部委員を務めることになりました、京都大学工学研究科 桂化学系図書室の長坂です。よろしくお願いいたします。

ところで、今年は 1972 年 9 月の日中国交正常化からちょうど 40 年の年です。国立国会図書館関西館でも「時空をかける三国志」という展示 (10/18-11/20) と「東アジアの三国志演義」という京大人文研教授である金文京先生の講演 (10/27) が開かれましたが、行かれた方はいらっしゃいますでしょうか。

ところで、その国交正常化の約 9 か月前。1971 年 12 月に漫画雑誌『希望の友』1972 年 1 月号に横山光輝が漫画『三国志』の連載を始めます。横山は後に、連載当初は資料が足りなかったことを川本喜八郎 (NHK の人形劇三国志の人形を作った人) との対談の中で語っています。(「諸葛孔明の魅力と秘密」『季刊歴史読本 WORLD』1991.8, p. 23-37)

連載当初に資料が足りなかったことを端的に表しているのが主人公・劉備の義弟である張飛の武器です。当初横山光輝『三国志』の張飛が持っている武器は日本でいう薙刀のような形をしていました。これが、単行本では 17 巻ごろから、蛇矛と呼ばれる曲がりくねった矛に変わります。おそらく、このころに中国から蛇矛についての資料が入ったのでしょう。以後、張飛の武器の「正しく」曲がりくねった形になります。

というわけで、政治・外交問題と、提供できる資料と、その成果物の間の関係性の話でした。意外と関係が有るものなんだなあ、と。

ながさか かずしげ (京都大学工学部・工学研究科桂化学系図書室)

● 野間口 真裕 (組織・財務／支部報編集)

早いもので、京都支部で支部委員となり、4 年目となりました。今年度は組織財務の主担当を継続させていただくとともに、支部報発送を離れ、支部報編集の末席を務めさせていただくこととなりました。大図研の大変化の年となりそうな今日この頃ですが、個人的には今年度も「『総会、研究交流会、支部報、メーリングリストによって会員相互の交流を深めていくとともに、新たな仲間を増やしていきたい』、そして楽しく前向きな議論ができれば」というモットーとともに頑張っていきたいと思っております。

どうぞ 1 年よろしくお願いいたします。

のまぐち まさひろ (京都大学経済学部図書室)

● 原竹 留美 (支部報印刷・発送)

支部委員として 2 年目を務めさせていただきます。

支部委員の活動は、日常の中で見過ごしてしまっていた大学図書館の「今」を、半ば必要に迫られながら「体感」することで、大学図書館員としてはたいへん刺激的な体験です。

今年の担当は支部報等を印刷して皆さまのお手元に届けることです。一年間どうぞよろしく願いいたします。

はらたけ るみ (滋賀医科大学附属図書館)

● 藤谷 篤 (研究企画)

今年度も引き続き支部委員を務めさせていただくことになりました。

入会と同時に支部委員としても活動をはじめさせていただいたことが、つい先日のように感じられます。その間、異動に伴い、京都から別府へと生活の拠点を移すこととなり、直接関われる機会が大幅に減ってしまったにもかかわらず、今年度も引き続き支部委員として関われる機会をいただきました。離れた場所からでも、何かお役に立てる発信ができればと考えています。

この冬には、勤務先でもある立命館アジア太平洋大学の図書館見学を含めた別府ツアーを企画しています。別府と言えば温泉ですよね。温泉でぼかぼか、心と体と頭をあつたかくほぐし、ゆるり図書館談議などいかがでしょうか。

それでは、1年間どうぞよろしく願い申し上げます。

ふじたに あつし (立命館アジア太平洋大学 APU ライブラリー(委託職員))

● 山下 ユミ (支部長/研究企画)

今年度、支部長 2 年目を務めさせていただくこととなりました。どうぞよろしくお願い致します。

昨年度は、8 月に京都で開催された全国大会に向けて必死の 1 年でしたが、おかげさまで無事に終了しました。今年は全国から京都にフォーカスして、もっと京都支部の会員相互のコミュニケーションを促進できる企画を実行していきたいと思っています。まずは忘年会で、ぜひ会員の皆さん一人ひとりにお会いできたらと思います。

やました ゆみ (京都府立医科大学附属図書館)

◇ 会費納入のお願い ◇

会員のみなさまにおかれましてはご健勝のことと存じます。

大図研会費および京都支部会費の納入をお願いしているところですが、納入率は依然思わしくない状態にあります。既に 2012 年度 (大図研会計年度 2012.07 - 2013.06) に入っておりますので、2012 年度の会費の納入をお願い致します。また、2011 年度以前の会費をお納めいただいていない会員のみなさま、一刻も早い会費の納入にご協力いただきますようお願い致します。

会費は、¥7,000 (大図研会費：¥5,000+京都支部会費：¥2,000) です。

会費は下記口座に郵便振替でお送りいただくか、お近くの支部委員におことづけください。

郵便振替振替口座番号 01090-4-5904 大学図書館問題研究会京都支部

また、ご不明な点は大学図書館問題研究会京都支部 (kyoto@daitoken.com) まで。